歯学だより
Vol.3

2007 年

岡山大学歯学部
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　歯学系
岡山大学医学部・歯学部附属病院　歯科系　広報専門部会

目次

学部長より
「実績こそ力なり」　岡山大学歯学部長　滝川　正春　4

副病院長より
「岡山大学病院における歯科専門医研修とハード面の変化」
岡山大学歯学部・歯学部附属病院歯系副病院長　佐々木　朗　5
「附属病院の歯科系広報誌から，附属病院，研究科，学部をまとめた
岡山大学歯学部総合情報交換誌「歯学だより」へ」
副病院長（教育・研究担当），歯系広報専門部会部会長　窪木　拓男　7

岡山歯学会より
「岡山歯学会が岡山県歯科医師会，岡山大学歯学部同窓会の後援で開催決定！」
顎口腔機能制御学分野　完山　学　8

卒後研修センターより
「必修化された歯科医師臨床研修の第１期生を送り出して」
総合歯科　白井　肇　9

学生教育について
「自由研究演習(研究室配属)」
歯学部　墻屋智之，保崎留美子，芦刈理恵　10
海外レポート
「大学教育の国際化推進プログラムに参画して」
口腔形態学講座　河井　まりこ　11
本学在学中に留学生によるレポート　～留学生の目～
「日本への留学」　歯科保存修復学分野　李　相紅　12
「Study Abroad」
Dept. of Oral Pathology & Medicine　R. Andrea Paola　13
「留学」　口腔病理病態学　マシュー　ベルナルド　ルフェーブル　14

岡山歯学会優秀論文賞受賞者寄稿
「プラークの重み」　口腔生化・分子歯科学分野　久保田　聡　15
「岡山歯学会奨励論文賞受賞して」　顎顔面口腔矯正学分野　菅原　康代　16

新任教員・転出教員紹介
「新任教授挨拶」　顎顔面口腔矯正学　山城　隆　17
「新任教員紹介：よろしくお願いします」　歯科麻酔科　樋口　仁　19

「新任教員紹介：よろしくお願いします！」 口腔外科（再建系） 松村達志 20
「新任教員紹介：着任のご挨拶」 捕綴科（クラウンブリッジ） 園山 亘 21
「転出教員紹介：教授就任のご挨拶」
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 西村英紀 22

診療科トピックス
「摂食・嚥下リハビリテーション診療室のご紹介」
第一総合診療室 石田 瞭/有岡享子 23
「Nasal Speaking Valve；鼻咽腔閉鎖不全による構音障害の改善装置」
咬合・口腔機能再建学分野 洲脇道弘 24
「歯の衛生週間イベント」 歯科衛生士室 三浦留美 25
「歯科衛生士室からのお知らせ」 歯科衛生士室 三浦留美 26

編集後記 歯系広報誌編集委員 27

「実績こそ力なり」

岡山大学歯学部長
滝川正春

昨年８月末に文部科学大臣と厚生労働大臣から，歯科医師養成数のさらなる削減に関する確認書が出され，今年に入って，国公私立歯学部長会議が開かれ，この点に関して，医学教育課長から説明があり，各大学個別に意見を訊かれることになった．すでに，歯学科の定員削減を余儀なくされた国立大学があるなかで, 岡大歯学部としてはどう対応するか協議を重ねた結果, 岡大歯学部の優れた点を，教育・研究・臨床についてそれぞれ実績を示して，強調する方針で臨むこととした．要は，優れた教育を行っている本学部が学生定員を削減することは，歯科医師の資質向上を謳っている厚労省の方針には逆行すること，ひいては国民の不利益に繋がることを主張することとした．本日，その意見交換会に出席し，その帰りの新幹線のなかでこの原稿を書いている. 結果は, 岡大への削減要請は特になく, 終始和やかな雰囲気の中で終わった. 歯科医師過剰が叫ばれ，歯学部の再編・統合が取り沙汰されて久しいが，やることをきっちりやり，実績を積み重ねておくことが重要であることの証と言えよう.

岡山大学の研究レベルは高く，教育も常に新しい取り組みを取り入れて改善してきた．病院も改革に改革を重ねてきた. 皆さんの普段からの努力が実を結んだ結果といえる. 教育・研究・臨床の３本柱の評価が, 今後, 益々数値として明確に表される時代になろう. 物差しも変化し, また，多様になりつつある．研究で言えば，その評価が論文数—＞英語論文数—＞インパクトファクターと変化，多様化し，最近はサイテーション（被引用回数）も評価の対象とされつつあるように，教育も研究も臨床も，絶えず時代の先を読み，クリエイティブに活動し，また，レベルアップするための自己研鑽を積む姿勢が重要である.

病院の名称変更について触れておかねばならない．岡山大学医学部・歯学部附属病院は，昨秋医療法上は岡山大学病院となった．そのため，看板その他随所に岡山大学病院という名称が使われるようになった．この名称変更は「シンプルでわかりやすい名称が患者サービスに繋がる」いう大義名分があり，やむを得ないところがあったが，学部にとっては人事権が歯学部から離れる可能性を秘めており，歯学部教育が担保できるか否かに関わる大きな問題であった．結局，学則上は，医学部・歯学部附属病院のままで何ら変わりないことで一応落ち着いたが，大学本部に向けて歯系を守る主張をするのに，歯学部の科研費獲得額全国２位，国家試験合格率全国一位等，歯学部が実績を挙げている学部であることが重要な材料になった．現在のところ，学内の正式書類はすべて医学部・歯学部附属病院のままであり，病院籍の教員は医学部・歯学部附属病院（歯系）の教員であることに何ら変わりない．人事も今までどおり歯学部教授会において行われる．独法化後，経営ばかりに目が向き，大学病院の「教育研究機関」としての本来の在り方が見失われがちであるが，教育研究機関としての存在を守るためにも，教育・研究・臨床における皆様の一層の努力が望まれる.

最後になったが，今年度末で渡邊達夫教授が退職される．私が岡大に新任教授として着任当時は若手教授のリーダーであった先生が，もうご退職である．つまようじ法を開発され,「抜かない，削らない歯科医」をキャッチフレーズに，学部を引っ張ってこられた先生のご努力に感謝申し上げる. 私もいつの間にやら，上から数えた方が早い年齢になってしまった．まさに「少年老いやすく学成り難し」である．皆様にも「一寸の光陰を軽んずることなく」，歯系の発展に今一層尽力し，実績を積み上げて頂きたい.

平成 19 年 3 月 15 日
文科省からの帰岡途中の新幹線にて

「岡山大学病院における歯科専門医研修とハード面の変化」

岡山大学歯学部・歯学部附属病院　歯系副病院長
佐々木　朗

「歯系だより」も３回目の発行となりましたが，歯系構成員の相互理解を深める意味で大きな役割を果たしているように思います．

歯科医療の発展とは裏腹に，歯科医業に関しては，昨年４月の歯科診療報酬の引き下げ，文書作成の負担増加など厳しい状況にあります．これは歯科医業だけでなく，疾病構造の変化や地域格差，少子高齢化による医療費膨張などの国家財政や社会環境の変化によって起こっている問題だけに，解決は難しく，国民の医療に対する十分な理解の上に立って解決すべき問題であるように思います．こうした閉塞した状況の中で，医育機関であり，高度医療を担う大学病院の役割は極めて重要であり，社会的使命を誠実に，そして，粛々と果たして行くこと以外，国民の理解を得ることはできないように思います．

大学病院の役割，使命については，既に歯学部長，歯系副病院長，歯系広報専門部会長により，この広報誌で述べられてきましたが，地域，病診連携を機軸とした中核病院としての高度な専門医療の提供，教育病院としての歯科医療人の育成，先端的歯科治療の開発・提供の３つに集約できると思います．この役割を果たすためには，臨床，研究における人材育成は，欠かせない要素ですが，平成１９年度より，大学院医歯薬学総合研究科に臨床専門医コースが設置されました．また，人員削減が行われる中，初期歯科研修医数の半数である３３名が，医員（レジデント）として，１年間の専門医研修を受けられることが決まりました．平成１９年度は募集期間が短く変則的ではありましたが，来年度から，大学院４年間と医員（レジデント）を組み合わせたキャリアパスに基づき，専門的な学識と技術を持った歯科医師を養成できる体制を構築できることは，資質向上を求める社会の要請に答えることにもなり，その成果が期待できます．この制度は大学院生に特化したものではありませんが，大学院との連携は，大学の生き残りという点でも極めて重要になってきます．また医員（レジデント）定数は，初期研修医数の実績により決定されることから，岡山大学病院での研修教育がいかに魅力あるかということを広くアピールして行くことが重要であることを，十分にご理解頂き，ご協力をお願いしたいと思います．

さて，医学部附属病院と歯学部附属病院が統合されて３年６ヶ月が経過しました．これまで統合による組織再編，歯系診療科の横断的な体制での専門外来の創設，増収に向けての問題点の見直し，院内診療システムの一本化など，主として統合後の組織改革や効率化が行われてきました．これからの５年間はハード面での大きな発展の時期となります．平成２０年春には，歯科病棟が，現在建築中の南病棟１０階に移転します．病棟移転後，医学部外来棟３階と歯学部棟は，連絡通路により連結され，歯科病棟の跡地には形成外科，精神科外来がまず移転し，平成２４年までには，皮膚科，麻酔科が入ってきます．また，新中央診療棟は平成２２年に完成する予定で，そこには岡山大学病院の看板である心臓外科手術や臓器移植手術などの最先端医療に対応した手術室や低侵襲手術の施設が設置され，一般手術室も増室されます．そして，口腔外科の手術もそちらで行われるようになります．このように医科と歯科の統合後の将来構

想が，いよいよハード面でも徐々に具体化され，岡山大学病院の全体像が目に見える形で大きく進化して来ると思います．こうした中で，我々歯系構成員の果たす役割は，何でしょうか？我々は，歯科医療に携わるプロフェショナルの集団です．歯科の独自性を維持しつつも，医科・歯科連携のメリットを生かせるような新規医療の実践化など，プロである構成員一人一人が知恵を出し，それを具現化することで地域医療や大学病院の発展に寄与して行くことが必要だと思います．

アメリカ合衆国３５代大統領ジョン・Ｆ・ケネディの就任演説の中に，「祖国があなたのために何ができるかを問うより，あなたが祖国のために何を行うことができるか問うてほしい．（And so, my fellow Americans: ask not what your country can do for you - ask what you can do for your country.）」という有名な言葉がありますが，混乱期においてはまさに至言だと思います．皆様のご協力をお願いすると同時にご活躍をお祈り致します．

附属病院の歯科系広報誌から，附属病院，研究科，学部をまとめた岡山大学歯学部総合情報交換誌「歯学だより」へ

副病院長（教育・研究担当）
歯系広報専門部会　部会長
窪木拓男

本広報誌も晴れて第３巻を発刊することができました．本巻をごらんになられたらお分かりになられたと思いますが，巻を重ねるごとに内容が大変充実してきており，原稿をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げる次第です．特に，今回の第３巻から，附属病院の歯科系広報誌から，附属病院，研究科，学部をまとめた岡山大学歯学部関連組織の総合情報交換誌へとグレードアップしました．内容も，病院だけのものから，学部・大学院などへ広がりをみせており，歯学系のどなたが読まれても楽しめるものになっています．研究・教育・臨床は切っても切り離せないものですから，このような機関紙の発展方向は正しいものと言えます．

さて，このように発刊し，発展してきた本広報誌ですが，これを継続する必要があります．これまでは，一部の編集担当の方に負担がかかっていましたが，これからは，けん制順に持ち回りの編集委員会を設ける必要を感じています．常に，フレッシュな視点から，本広報誌の刷新を図っていく必要があります．滝川先生のお言葉ではありませんが，継続は力なりです．

一方，岡山歯学会も歯科医師会や同窓会のご協力をいただき，岡山県の歯科界全般が集う拡大学術大会になる方向性を模索し始めました．すぐに，一体化するのは難しいかもしれませんが，各団体が現在直面している問題を共有し，ともに協力し合って困難な局面に対応していく必要を感じます．すなわち，岡山歯学会の役割は，学術面はもとより政策面や医療行政，生涯教育，病診連携など，どんどん広がっているのです．

来年度は岡山地区でプライマリケア学会が開催される予定です．プライマリケア学会は，医科の臨床系の大変大きな学会ですが，岡山県医師会が他の職種の方々にも門戸を広げて総合的なプライマリケア医療を推進するという方針を採られ，歯科医師会やわれわれ歯科系附属病院にも声をかけていただきました．医科の方では後期高齢者医療の専門家を作る動きが活発ですが，歯科もこの動きに同調して後期高齢者医療に参画する必要を感じます．プライマリケア学会は後期高齢者医療に関して大きな発言権を持つ学会ですので，歯科としてこの学会に参画させていただけるのはありがたいことと思っています．

以上のように，岡山大学歯学部を中心にどんどん改革が進んでいます．これらの活動を総じて，岡山大学歯学部のブランド力をアップし，多くの方々が歯科医療，ひいては国民の健康や医療全般に，やりがいを持って参画・貢献できますよう，願ってやみません．

「第 28 回岡山歯学会総会・学術大会が決定！」

来る平成 19 年 8 月 18 日（土），19 日（日）に岡山大学創立五十周年記念館において第 28 回岡山歯学会総会・学術大会を行う運びとなりました．

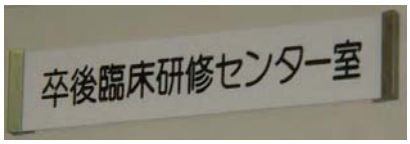
岡山歯学会は岡山大学歯学部の開設に伴って 1979 年 10 月に設立されてから 2007 年で 28 年の歴史を刻み，岡山大学歯学部ならびに医歯薬学総合研究科における学術研究と学位論文の発表の場として寄与してきました．本年は，（財）岡山県歯科医師会，（財）岡山県衛生士会，（財）岡山県技工士会，岡山大学歯学部同窓会のご後援を頂き，岡山地区の歯科医療関係者が広く集う学術大会として開催されることになりました．

現在予定されているプログラムとしては，昨年，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎顔面口腔矯正学分野教授に就任されました山城　隆教授の特別講演をはじめ，内科的歯周治療に関する特別講演をこの分野のパイオニア的存在である生田図南先生に，摂食嚥下リハビリテーションに関する臨床講演を日本歯科大学高齢者歯科の菊谷武先生と三豊総合病院歯科口腔外科の木村年秀先生にお願いしています．また，インプラントに関する市民公開講座も予定しています．

これら以外にも，一般口演やランチョンセミナー，技工士セッションや衛生士セッションなどなど種々の企画を予定しておりますので，是非，多数の方に御参加いただきますようお願い申し上げます．

お問い合わせ先：
〒700-8525　岡山市鹿田町 2-5-1
岡山大学医学部・歯学部附属病院補綴科（クラウンブリッジ）
第 28 回岡山歯学会総会・学術大会　準備委員長
完山　学
TEL：086-235-6681
FAX：086-235-6684
E-mail：kanyama@md.okayama-u.ac.jp

必修化された歯科医師臨床研修の第１期生を送り出して



総合歯科　白井　肇

平成 19 年３月，岡山大学病院卒後臨床研修センター歯科研修部門から，必修化された歯科医師臨床研修を終了した第１期生を一人の脱落者もださずに, 無事送り出すことが出来ました. 労を惜しまず協力してくださった各専門診療科の先生方に感謝の意を表すとともに，切磋琢磨しながらも，相互補助し，全員が同時に研修終了証を手にした第１期生の研修歯科医の皆様と無事終了したことの喜びを共にしたいと思います.

平成 18 年度から必修化された歯科医師臨床研修は，卒直後に受けないと各施設への補助金がおりないことや，マッチングという新しいシステムによって研修施設が決められることなどから，必修化前の卒業生とは全く異なる環境にあります．必修化された研修を受けることに設定されている大学卒直後のこの時期は，人生においても結婚や出産，親の病気等の研修以上に重要な人生のイベントが不測におこる時期でもあります．そのような人生のイベントと研修の時期が不幸にも重なってしまった場合に，必修化前では気軽に人生の小休憩をいれることができましたが，研修期間中であった場合には，煩雑な手続きをとった上で研修中断となり，現状では, 上記の理由から研修中断者を受け入れる研修施設はほぼ皆無という現状があるからです. したがって，卒直後に長期休暇を余儀なくされることが予測される場合には，無理に卒業して歯科医師国家試験を受験し，研修中断となるよりは，休学して人生に小休止を入れ，環境が整うまで卒業をまった方が良い場合も生じてくるのではないかと思います．平成 18 年度の研修歯科医には，研修期間中に結婚したものが１名おりましたが，研修を中断せざるを得ない状況になった者が一人もでなかったことを素直に喜びたいと思います.

そして，もう一つの喜びは，平成 18 年度から初めて開始することになった複合型研修プログラム（大学での研修４ヶ月＋複合型研修施設での研修８ヶ月または大学での研修８ヶ月＋複合型研修施設での研修４ヶ月）が，大きなトラブルがなく無事終了したことです．研修中途でのプログラム変更はできないため，当初は研修歯科医と受け入れ側の指導歯科医との関係がうまくいくかどうか非常に心配しておりましたが，各複合型研修施設の指導歯科医の先生の寛大な心のお蔭で全員無事終えることができました. また,研修歯科医を受け入れて下さった各複合型研修施設が来年度以降も研修歯科医の受け入れを継続しても良いと言ってくださり，心から感謝しております.

平成 15 年に，平成 18 年度から必須化される卒後臨床研修の開始準備として設置された卒後臨床研修センターも４年目を迎え，プログラムも年々充実したものになってきており，目的としていた①臨床研修に専念できる環境を整備すること，②診療に従事する歯科医師として患者中心の全人的医療を理解した上で，歯科医師としての人格を涵養すること，③総合的な歯科診療能力を身につけ，臨床研修を生涯研修の第一歩とすることについては，研修歯科医が歯科医師としての基盤を形成する卒直後のものとして環境準備が整ってきた様に思います. 今後は，卒前臨床実習との連携を視野に入れ，他大学に負けない卒後臨床研修センターの体制作りを目指したいと考えております.

「自由研究演習(研究室配属)」

歯学部　４年次学生
墻屋智之　保崎留美子　芦刈理恵

昨年，私達は学生が自ら実験研究に参画し，研究を通して問題解決能力および総合的応用判断能力を養うこと，さらに研究発表能力や科学的視点を身につけることを目的とした自由研究演習を行った．さまざまな研究室の中から，私達は歯科保存修復学分野を専攻し，約二ヶ月間当科の一端に触れた．今ここで，その二ヶ月間を振り返ってみようと思う．

夏休み前のことであったが，抽選という形で配属先が発表され，希望どおりだった者，そうではなかった者様々であったのを覚えている．そして，配属先の決定に際し，各教授への挨拶を行うようにとのことであった．私達三名は三者三様の思いを抱きながら教授室を訪問した．ある意味これが私達の自由研究演習の始まりであった．

まだ暑さが残る十月，本格的に自由研究演習が始まった．私達はマウス歯乳頭由来の細胞を培養し，その性質の解明に取り組んだ．しかし，私達にとっては初めての培養実験であり，細胞は日々変化し，定期的に観察を行いながら培養をしていたが，培養液の調整ミスまたは細胞成長不良のため，この実験を続けることは断念せざるをえなくなった．

そこで次なる実験として，現在う蝕治療でよく用いられている材料，コンポジットレジンの歯への接着強さの測定実験を行った．接着操作が熟練している歯科医師と，接着操作未経験の学生との間で，その接着強さの差異が現れるかについて検討した．その結果，操作性が簡便化であるほど，熟練度の影響は小さくなることが分かった．

今回の研究室配属を通して，研究課題を見出し，最適な研究方法を設定するには，十分に検討する必要があり，さらに結果を出すことは容易ではないと思った．しかし，さまざまな研究が臨床の現場に活かされるのだと思うと，その重要性を実感することができ，今回その一端に触れられたことは貴重な体験であった．

最後に，吉山教授をはじめ，ご指導いただいた先生方にこの場を借りて感謝の意を表したい．ご指導ご鞭撻，本当にありがとうございました．

「大学教育の国際化推進プログラムに参画して」

口腔形態学講座
河井　まりこ

この度，大学教育の国際化推進プログラムとして，ドイツミュンスター大学病院大学に派遣されました．ミュンスター大学病院はミュンスター大学を基盤としながらも，大学病院大学として，独自の教育と研究のシステムを有しています．このような大学病院大学はドイツ国内には，ミュンスターの他，マンハイム，チュービンゲン，ロストックにあります．いずれの大学も医療分野において，ドイツを代表する先端医療機関として位置づけられています. また, 11 の研究所を有しており，それぞれが研究だけでなく，歯学部，医学部の学部教育に携わっています．私はその付属研究所のひとつである, 生理生化学研究所と病理生化学研究所が統合された研究所に現在おります.

教育面では研究所に専用の講義室と実習室があり，歯学部，医学部の学生はともに講義，実習のためにそれぞれの研究所を移動します. 講義や実習はテーマごとに担当教官が決められており，持ち回りで行なわれ，ポスドクや学生も担当します．血液の成分解析のテーマでは自分たちの血液と実際に大学病院で糖尿病の患者さんから採血したものとの比較を行なったりします．また，本学同様，教室配属という制度があり，学生が半年間，終日各研究室にて，研究に携わります．その後も，自分のペースで実験を続け，本一冊程度の冊子にまとめ，さらに試験にパスすることが学位取得の条件となります．Ph.D.取得のための大学院教育では，おのおの研究プロジェクトにおいて給料を得て，研究を行います．アルバイトをせずに研究に専念できるのは, うらやましい限りです. 期限はなく, 分厚い本のような立派な論文を書き上げます.

研究面では，生理学，生化学，そして病理学の研究室が同じ建物にあるため，週一回の合同セミナーでは持ち回りで研究発表が行なわれ，相互の研究について，大変風通しのよい環境です．また，研究テーマにおいても，大学病院大学として，トランスレーショナルリサーチに重点をおいたものが多く行なわれています．一方，人事面では教授のみがパーマネントな職のため，ポスドクは自分で研究費を獲得するか，あるいは，だれかのプロジェクトのもとで働かなければなりません．その面では，実力だけではないものも見え隠れしてきますし，考えさせられる点もあります.

ドイツといえばビール，じゃがいも，そしてソーセージのイメージで，特にじゃがいもは美味ですが，毎日は無理です.

いずれにしましても，大変貴重な派遣期間内にできるだけ，多くのことを吸収したいと思います.

「日本への留学」

歯科保存修復学分野
李　相紅

私は中国ハルピンから来た私費留学生です．私は，母国のチチハル医学院を卒業するにあたり，卒業後の進路として国内の病院に勤務し，臨床家として研鑽を積むべきか，さらに医学に関する知識を深めるために大学院に進学するかで悩みました．いろいろと考えた結果，若いうちに自分の学識と研究手技を高めることに決めました．海外留学の方が国内での進学よりも視野が広がり，さらに異国の文化や習慣も学べるという考えのもと，日本で留学することを決意しました. 日本はアジアの中で先進国であり, 中国とは歴史的にも昔から繋がりのある国です．さらに中学校から第一外国語として日本語を履修しており，生活面でも早く慣れると思いました．日本での留学を始めてからもさらに日本語を専修し，2004 年の 12 月に日本語検定 1 級を取得しました．最先端の虫歯治療技術や修復材料に深い関心があったことから，これらのことを学ぶ上で最も適した環境である岡山大学大学院の歯科保存修復学分野，吉山教授の元で平成 16 年から研究生として，平成 17 年からは大学院生（博士課程）として在籍しています．当講座では，生体機能再生再建学に関する研究に携わるとともに，象牙質とレジンの接着メカニズムの解明に関する研究を私の研究テーマとして日々研究を精力的に遂行しています．今は母国からの仕送りもないし，奨学金もないためアルバイトをしながら研究するのは大変ですけど自分なりに精一杯頑張っています.

大学院修了後は中国に帰り，日本で学んだ知識や経験を活かして母国で歯科医師として活躍したいと考えています．日本では虫歯の患者数は減少傾向にありますが，中国はまだまだそこまでには時間がかかるのが現状です．これらに関しても日本が取り組んできたことが大変参考になると考えています. 歯科医師として活躍すると同時に国際交流と相互理解を深めることで，さらに中日友好関係を発展させることに尽力したいと考えています.

「Study Abroad」

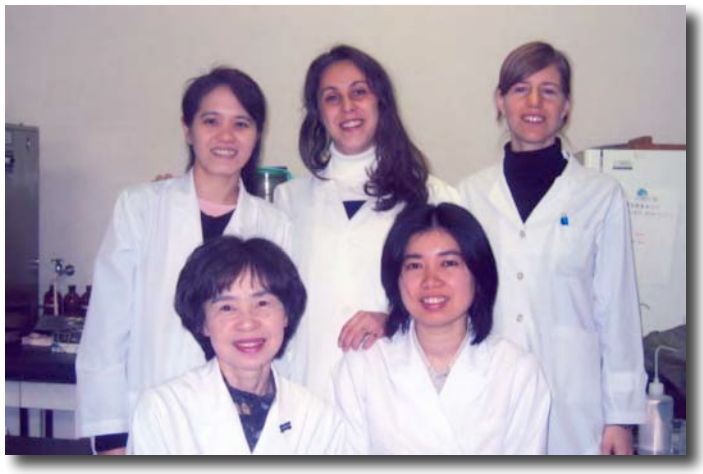
Department of Oral Pathology and Medicine
R. Andrea Paola

Argentina, my country, is the result of a mixed of custom and culture from European countries, principally Spain and Italy, and native people. There are also some minorities including Middle East and Asians countries. Interestingly, Japan is formed by a homogenous culture; because of this Japanese has the same philosophy of life.

One of my funny stories in Japan was when a Japanese family took me to Korakuen. At that time we communicated doing mimics. They bought strange dry bread for me. After walking for a while and reaching to a beautiful lake with colorful fishes, Japanese asked me with mimics where the dry bread was to feed the fishes, and I answered her with mimic that I had eaten them and it was in my stomach them……and everybody laughed a lot…….

I also remembered that during a party I met many Japanese guys and I greeted them with my usual greeting style: KISSING. After I kissed one by one the environment became tense and their faces became red. At that time I could not understand what happened, but later my friend explained me that they never kiss. For that reason I felt uncomfortable, but later my friend told me that I was the first woman who kissed them, so they will never forget me….

With time, I accustomed to the Japanese culture and growing in the world of research. At the beginning, this lab was as my second home, because the oral pathology staff makes this lab a kind, friendly and warm place. After 5 years working in the department under the supervision of Professor Nagai, I can say that I have improved my scientific knowledge. I also have learned to work in team with enthusiasm, to support each other and at the same time to enjoy our unique beautiful lives. I will always thank to everybody who helped me during my pregnancy to protect my baby from toxic substances.



It will really be a long story to explain how comfortable I feel in Japan and especially in this department. This is the reason why I chose this place to do my postdoctoral fellow. I would like to express my gratitude to my Professor Nagai for inviting me and to Monbukagakusho and JSPS to give me this great chance for my research career. From the botton of my heart thank you very much.

「留学」

口腔病理病態学
マシュー　ベルナルド　ルフェーブル

フランスのマシューである．永井先生をかげで２００５年１０月日本へ研究に来ることになった．フランスで TEGDMA の毒性について研究して，細胞培養をよく使った．TEGDMA は細胞をどうやって殺す？何のメカニズムは巻添えにする？これについて研究して，とてもおもしろかった．

日本へ来ることはやっぱりいい経験である．研究のことだけじゃなくて，フランスと比べると日本ではいろいろな異なることがある．例えば秋の紅葉と春の桜．もちろんフランスにも桜と紅葉が見えるが，フランス人には興味がない．紅葉は木の死で，そろそろ冬だと思っている．同じようにフランス人によると春の初めの桜は価値がなくて，夏の頃おいしい果物ができた桜だけ価値がある．

でも一番異なることは学校である．まずフランスでは制服がない．日本の学校について，制服以外，私にびっくりしたことは週末も生徒が学校へ行くのである．始めに「さすが日本人だな！勉強は本当に大好きね．働き者だ」と思った．この時生徒は週末学校へ勉強に行くと思った．実はフランスにはクラブなどがないので，学校で勉強しかできなくて，地獄のように苦しみの場所である．

もちろん大学も異なるである．フランスで高校の三年生は国中大切で「baccalaureat（バッカロレア）」という試験を受けなければならない．失敗したら，もう一年高校の三年生になるが，合格したらどこでもの大学に入れることになる．ただし大学に入れても毎年の終わり試験があって，失敗する学生は留年しなければならない．このシステムによると大学に入れる人が多いが，卒業ができる人が少ない．

ではこれから，まじめなことについて話をやめさせてもらう．ごろごろすること以外趣味は漫画とアニメーションである．フランスにも日本の漫画とアニメーションが有名で，たくさんフランス人は漫画をよく読むが，日本の漫画はセックスとバイオレンスについてしか話せないとおもっているフランス人もいる．日本へ来たからフランスでみつけられないビデオゲームと漫画とアニメーションをみつけた．おもしろいことは子供の頃力を持っていて，いつも「お前はもう死んでいる」と言っている主人公がでる北斗の拳というアニメーションを見た．今かわいい女の子で，いつも「いっぺん死んでみる？」と言っている主人公がでる地獄少女というアニメーションをみている．

今，新しい研究を始めた．扁平上皮癌について研究して，まだ使ったことがない，いろいろな Methods を使っている．新しい癌抑制遺伝子をみつけるため LOH 解析をやっている．とてもおもしろくて，分子生物学が気に入っている．

よろしくお願いします．

「プラークの重み」

口腔生化・分子歯科学分野
久保田　聡

青葉眩しい頃となりましたが，いかがお過ごしでしょうか．私，久保田が前世紀末にフィラデルフィアよりここ岡山に流れ着いてからもう随分になります．歯学部の一つ屋根の下，これをお読みの貴方ともきっとお会いしたこともあることでしょう．時々場違いなところにクマのように出没いたしますが，普段私は歯学部棟の真ん中５階，口腔生化・分子歯科学分野に棲息しております．

実は昨年度は私にとって特別でした．なにせ岡山歯学会より優秀論文賞をいただいたのですから．いえいえ，この意味は私にとって，ご想像よりずっと大きいのです．自慢じゃないですが，私は生まれつき賞とは無縁でした．狙えば狙うほど外れるのです．子供のころの作文賞，学生時代の作曲コンクール, そして学会賞. どれもこれも選外佳作！次点！期限後到着で失格！もう沢山だ！！それでもたまに選ばれたと思ったら，授賞式に結局欠席して大いに座を盛り下げてしまったり．「呪われてる. . .」私は呟くしかありませんでした．それから長い間無冠の帝王を気取るでもなく，「ホコリ」だけが浮遊するカラッポの黒い箱を心に隠し生きて来ました．おかげさまでやっと，その黒い箱も内側から光を得たかのようです．

そんな感情論はさておき，冷静に考えると今回の受賞には別の大きな意味があることに気づきます．今まで様々な機会で私が受賞に至らなかったのは，なかなかやるではないか，しかしイマひとつ「ズバ抜けた」（outstanding）ところがない，ということだったのでしょう．ところが今回はそういう基準で選ばれたのではないのです．評価されたのは私の特定の「ズバ抜けた」研究ではなく「一連の研究」なのでした．これは臨床４分野をはじめとする，多くの歯学部のみなさんとの連携のもと出し得た成果です．つまり歯系の連携を支え研究を発展させたという，どちらかと言えば地味で，しかし大切な努力を評価いただいたのだと気づきました．そう気づいた瞬間，プラーク（賞牌）の重みをいっそう実感したのは言うまでもありません．因みに plaque という英語には賞牌，額という一般的な意味があり，普通の辞書で引いても歯垢という訳語はなかなか出てきません．タイトルで虫歯の話を期待させられ，ここまで読んでいただいた貴方には，確信犯的笑みをもってここでお詫び申し上げます，ごめんなさい．

ところで私の研究対象なのですが，これまた一見「ズバ抜けない」連中なのです．たとえばヒトの DNA にはいろんな生命情報が記されていますが，私が特に興味を惹かれるのは，遺伝子の中でも一見「何やってんだかわからん部分」なのです．歯学会優秀論文賞もこの研究を評価していただきました．また軟骨，骨や歯をつくるしくみ，そしてその時活躍するタンパク質の研究にも力を注いでいますが，そんなタンパク質の中でいまとても気になる奴らがいます．彼らは自分ひとりでは目の覚めるような力は発揮しない．そのかわり他のいろんなタンパク質と手をつないで，さりげなく皆をあるべき姿に引っ張っていく，そんなタンパク質たちで，メンバーの頭文字をとって CCN ファミリーの名で知られています．いかがです？どっちも outstanding って感じじゃないでしょう？ただ，もしかしたら私は研究を通じて，これら目に見えない分子達から逆にいろいろなことを教えられて来たのかも知れません．賞をいただいた意味と，生体分子たちの活躍をひとつの世界の中に透視しながら，これからも歯学部内の彷徨をつづけるつもりです．最後になりましたが，私をご推薦，ご選考いただいた岡山歯学会関係者各位に心から御礼申し上げます．ありがとうございました．

「岡山歯学会奨励論文賞受賞して」

顎顔面口腔矯正学分野
菅原　康代

岡山歯学会奨励賞を受賞させていただきました．受賞の対象となったのは“Three-dimensional reconstruction of chick calvarial osteocytes and their cell processes using confocal microscopy”です．賞をいただいたことを大変光栄に感じております．

私は岡山大学大学院歯学研究科時代に骨の研究の基礎を学び，特に骨中の骨細胞に注目して研究を行いました．骨細胞は骨芽細胞から分化する際に突起を伸ばすことにより，ネットワークを形成し，骨基質に埋もれていきます．この骨細胞にはメカニカルストレスに反応する，骨のリモデリングを調節するなどの様々な機能があると考えられています．これらの機能には骨細胞のネットワークが重要な役割を果たしているといわれています．したがって，骨細胞のネットワークの形態を捉えることはこれらの機能を考える上でも重要です．私たちの研究グループは以前細胞を蛍光色素で標識し，共焦点レーザー顕微鏡を使用することによって骨中の骨細胞を観察することが可能であることを報告しました．本研究では骨細胞がアクチン線維に豊富であることに注目し，前回の手法を応用して骨細胞のアクチン線維の蛍光画像を得ました．その蛍光画像から骨細胞の三次元構築を行い，骨細胞の広範囲の詳細な形態分析や形態計測を行いました．私達のアプローチは，今後，骨粗鬆症，大理石骨病などの様々な骨の病気に対する骨細胞の影響や，ストレスに反応する際の骨細胞の機能をモデル化する際にも有効であると考えられます．

今後は今回の受賞を励みにし，尚一層努力してまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします．最後になりましたが，様々な機会を与えていただきました山本照子教授（現東北大教授），上岡寛助教授，ならびにご指導御協力いただいた共同研究者の方々にこの場をお借りして感謝いたします．

「新任教授挨拶」

顎顔面口腔矯正学
山城　隆

山本照子前教授の後任として，昨年 12 月 1 日付けで顎顔面口腔矯正学分野を担当することになりました．岡山大学歯学部の皆様に，このようなご挨拶をさせて頂く機会を与えて頂きましたことに感謝いたします．また，その責任の重大さには身の引き締まる思いであります．

私は大阪大学歯学部を平成 2 年に卒業後，大阪大学矯正科で 7 年を過ごし，岡山大学に移動して 7 年（そのうち 2 年間をヘルシンキで過ごしております），そして大阪大学でもう一度 2 年弱の年月を過ごし, この度岡山の地を再び踏むことになりました．前任の山本先生は私の大学院の指導をしてくださった恩師でもあり，私は山本先生のもと実験的歯の移動もモデルを用いた歯槽骨の骨代謝について研究しておりました．ここ岡山大学においても，山本先生から研究のみならず臨床，教育においても多大なるご指導をいただき，そこで得た経験と知識は私の基盤となっております．今後の顎顔面口腔矯正学分野の教育・研究・臨床における基本的な方向性は大きく変更することは無く，今までの山本路線を継続する所存でございます．そして，時局に応じた色づけを加えていきながら，顎顔面口腔矯正学分野のさらなる発展を図るつもりです．

歯科矯正学の臨床は一般的な歯の移動のみならず，先天性疾患や事故等による顎顔面の変形等に対する審美的，機能的な総合的機能回復をも扱います．私自身が歯科矯正治療を大学に残り今日まで継続しているのも，この分野の治療に魅了されたところがもっと大きいと思います．岡山の立地条件や医学部の歴史と影響力を考えますと，当診療科の潜在需要はさらに高まり，より発展する下地があるはずです．今後，当診療科は顎変形症および顎顔面に奇形をもたらす先天性疾患の矯正治療を診療の主軸のひとつとし，今まで以上に重点をおいて展開していきます．皆様がたのご支援，ご協力をいただければ幸いです．

研究につきましては，先に述べましたように私は骨の研究からスタートしました．そして，現在においても，本研究科口腔生化・分子歯科学分野等の支援を頂き継続しております．一方，大学院を終了した直後に，骨とは 180 度異なる神経系の研究に鞍替えをし，滋賀医科大学・精神医学講座で研究手法を習いました．こちらに移動してからも，本研究科神経情報学分野ならびに口腔機能解剖学分野からの支援を得て，歯の移動で生じる痛みについて研究をしました．同時に，骨の研究も再開したため，骨と神経の異なる 2 足のわらじを履いて研究を続けておりました．当初は，全く別の分野として独立した研究を展開していましたが，二つの知識を併せ持つと，歯の移動という一つの現象のなかでの神経系と骨代謝の関連にも興味が向くようになりました．さらにその過程で，マラッセ上皮と神経系や骨代謝の関連について研究対象が広がっていきました．平成 10 年からは，山本先生のご高配によりヘルシンキ大学の Irma Thesleff 教授のもとで研究をする機会を与えられました．ここで新たに発生生物学を

学び，特に歯根の発生と Runx 遺伝子群の歯における顎顔面の形成に関わる役割について検討をおこないました．この研究室は歯を皮膚付属器官の一つのモデルとして扱い，上皮間葉相互作用を通して分化・増殖・形態形成・パターニングなどについて注目して研究を展開していました．この考え方は基礎研究のみならず，臨床にも有益であり，歯を従来以上に全身の臓器との関連で理解できるようになったとともに，歯の研究のどの部分が，他分野の研究者にとって興味の対象になるかを知ることができました．帰国後も，現在に至るまで共同研究を続けています．発生を学んだことで，研究の興味がまたもや変わり，現在，私自身が検討している研究テーマは口蓋裂の形成における上皮の癒合と象牙質形成のメカニズムの解明です．もちろん，発生学の観点を取り入れ，もう一度，骨の形成，歯の周りの神経系についても検討したいと考えております．

現在，歯科の置かれている状況は非常に厳しくなっています．文部科学・厚生労働両大臣により歯科医師の養成に関して，歯学部入学定員の削減と，歯科医師国家試験の合格基準の引き上げを記した確認書が示されました．大学の生き残りをかけて，国家試験の高い合格率と優れた研究業績を維持することは一つのキーワードになるのかもしれません．また，本大学院が歯学研究を展開する機関として継続するためにも，われわれは今以上の研究業績を挙げその存在意義を高めることが必要だと考えています．一方，日々，診療報酬についてもプレッシャーがかかっています．すべてにおいて非常に厳しい状況ですが，皆様方と一緒にこの難局をなんとか乗り切っていきたいと考えています．今後とも一層のご指導，ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます．

「新任教員紹介：よろしくお願いします」

歯科麻酔科
樋口　仁

この度，平成 19 年 1 月より歯科麻酔科の助手に任命いただきました．これまでよりさらに責任を持って「臨床」「研究」「教育」に取り組んでいかなければと，肝に銘じております．とはいえ，まだまだ「臨床」「研究」「教育」共に経験が少なく，このような紙面で大それたことは書けませんので，これまでの経歴とその時々に感じたことを書かせて頂こうと思います．

僕が岡山大学歯学部を卒業したのは，ちょうど 8 年前になります．卒業後の大学院生として岡山大学歯科麻酔科へ入局しましたが，研究は口腔生理学教室でさせていただき，松尾先生，舩橋先生（現：北海道大学歯学部）に研究・実験の手ほどきを受けました．大学院の印象は，研究は僕が思っていたほど華やかなものではなく，本当に地味なものだと感じました．それでも舩橋先生の aggressive な指導のおかげで，研究結果が出たときの喜び，またいろいろと知識を深めていくことの楽しさを研究初心者でありながら実感させていただいたことは貴重な財産となっています．

大学院修了後は 1 年あまり福山の病院で口腔外科医として勤務し，その後 1 年間，岡山大学医学部麻酔・蘇生学教室で麻酔研修の機会を得ることができました．共になかなか経験できないことをたくさん経験させていただき，臨床医としていろいろな困難にもぶつかりましたが，それ以上多くのことを教えていただき，また学ぶことができました．この大学院の 4 年間，口腔外科での 1 年間，そして麻酔研修での 1 年間は，今の僕の歯科医師としての基礎を作ってくれた大変貴重な時間でした．

現在は，外来・手術室の麻酔管理，特に外来全身麻酔に積極的に取り組んでいます．また研究では「中枢神経における酸化ストレス制御」に関する研究を始めました．その他，「臨床研究もいろいろやってみたいなあ」とやりたいことに思いは募るのですが，なかなか実行するには腰が重くて・・・，といった状況です．

今後は自分のことだけでなく，これまでの 8 年間で自身が身につけたことを，助手という立場で患者，学生，研修医にいかに還元していくかを考える必要もあります．今の僕にはかなり重荷ですが，大学の同級生も多方面での活躍を耳にしますし，みんなに負けないようにがんばらなければいけないと思っています．とはいえまだまだ未熟ものですので，今後も皆様のご指導，ご鞭撻をよろしくお願いします．

「新任教員紹介：よろしくお願いします！」

口腔外科（再建系）
松村達志

初めまして，2006 年４月より岡山大学病院　口腔外科（再建系）に着任しました松村達志です．着任して一年以上となりましたが，下記のように未だ歯学部の建物内を彷徨っている様な状況です．自己紹介として現状を書き連ねていこうと思います．

まず臨床面では３階の口腔外科診療室または歯科病棟で大半を過ごしています．他診療科の先生・スタッフ方々と接する機会が少なく，また岡山大学の診療体制を理解しきっていない事も災いし今まで接する機会があった皆様には何かとご迷惑をかけてきたかと思います．これからは他診療科の先生・スタッフの皆様ともっと交流をもって，患者様に対してより良い診療サービスを提供していける様に心がけたいと思っています．

研究に関しては・・，現段階では立ち上げの段階なのであまり大それた事を書けません．大学院時代には歯胚培養を，大学院修了後には基本転写因子の事をメインとしたラボで細々と行なってきました．今後，いろんな方面の先生のご意見を聞きながら，自分の系を確立していきたいと思っています．その節にはよろしくお願い致します．

最後に教育面では講義係・CBT 委員・一年生向けチュートリアルのチューターを行なっています．今までのキャリアが臨床・研究のみであった私は教育面・チューターの経験を全く積んでいない（もちろん，チュートリアルを受けた経験もなく…）ため，関係者の皆様に多大なご迷惑をかけております．今まで接してきた先生方々の様に早く教育面にも長けた教員になっていきたいと思っています．

日々精進していく所存ですので，今後ともよろしくお願い致します．

「新任教員紹介：着任のご挨拶」

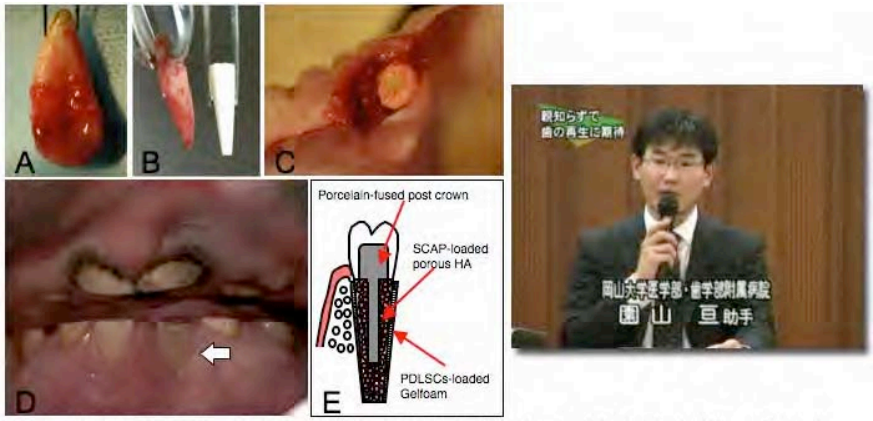
補綴科（クラウンブリッジ）
園山　亘

岡山大学の皆様，たいへんご無沙汰しております．2004年2月からのアメリカ留学生活を終え，2006年9月に帰国いたしました．帰国後は10月1日をもちまして岡山大学医学部・歯学部附属病院補綴科（クラウンブリッジ）助手に採用され，この4月からは「助教」と言う，由緒正しいらしい職名となりました．助教の職務内容は「専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって，学生を教授し，その研究を指導し，又は研究に従事する」とのことです．自分にこのような職が勤まるかどうか，いささか不安ではありますが，精一杯努めさせていただく所存ですので，よろしくお願いいたします．

メリーランド州NIHで2年2ヶ月，カリフォルニア州南カリフォルニア大学歯学部で6ヶ月の，合計2年8ヶ月となったアメリカ留学はたいへん有意義な物でした．仕事は研究しかない生活を２年以上過ごし，多くの基礎的な知識を得るとともに，少しは研究の立案や進め方を理解できたように思います．今後は私が得たものを若い先生方を通して岡山大学に還元できればと考えています．

帰国後の私に取ってのイベントと言えば，留学中の成果の記者発表をさせていただき，その内容がたいへんローカルですがテレビで放映されたことです．また，ヤフーでも小さくではありますが配信され，各社の新聞に掲載されました．論文を発表し，公表されるまでは世の中へ与えるインパクトがどれほどのものになるのかわからない研究者に取ってはたいへんうれしい日となりました．これからも独りよがりにならず，世の中の役に立つ研究をやっていきたいと思っています．

末筆になりましたが，今後とも関係各位のご指導，ご鞭撻を賜りますよう，お願い申し上げます．



A: ミニブタから採取した根未完成歯の根尖相当部軟組織からミニブタ SCAP を分離，培養した．同歯の健全歯根膜からはPDLSCも分離した．B:スキャフォードとしては事前に歯根型に整形した多孔性ハイドロキシアパタイトを使用した．培養により十分な細胞数を確保した後で，このスキャフォード内にミニブタSCAPを播種し，その周囲をミニブタPDLSCを播種したコラーゲンスポンジで包んだ．C: SCAP-ハイドロキシアパタイト／ PDLSC-コラーゲンスポンジ複合体を残存歯根膜を完全に除去した抜歯窩に移植，粘膜を縫合した．D: 移植から３か月後に粘膜を切開し，陶材焼付歯冠継続歯を装着した．移植したSCAP-ハイドロキシアパタイト／ PDLSC-ゼラチンスポンジ複合体はミニブタの口腔内で装着された継続歯の支持体として機能した（矢印）．E: 移植されたSCAP-ハイドロキシアパタイト／ PDLSC-ゼラチンスポンジ複合体のシェーマ．
（Sonoyama et. al., 2006より一部改変引用）

「転出教員紹介：教授就任のご挨拶」

広島大学大学院医歯薬学総合研究科
西村英紀

昨年９月１日付けで広島大学大学院健康増進歯学に赴任いたしました．ご存知の方もいらっしゃると思いますが，私が主宰する教室は以前の保存修復学の教室を母体としたもので，それに加え国民の健康増進および健康長寿の達成に寄与するような歯科医療・歯科医学の開発を目指した学問を展開する分野を創設したいという広島大学歯学部の強い願いのもと新たにスタートしたものです．

私は母校の九州大学歯学部を卒業後，直ちに新設間もない岡山大学歯学部の歯周病教室に入局し，その後５年間の留学を経て，再び岡山大学にお世話になりました．岡山大学には留学をはさんでほぼ 15 年間お世話になったことになります．このような経緯から私はこれまで西日本の３つの国立大学（あるいは国立大学法人）の歯学部で過ごした経験があると言うことになります．この３校はいずれも国立大学ではありますが，風土あるいは土地柄からかその雰囲気はかなり異なります．どう異なるか一言で言い表すのは大変難しいですが，それぞれに秀でているところ，あるいは劣っていると感じるところがあるように思います．私はそれを自身の肌でずっと感じる環境にいましたので，逆にそれが自身の強みでもあると思っています．渡る世間は鬼ばかりというドラマがありますが，必ずしもそうでもないと感じることもあれば，やはりそうに違いないと感じることもあります（笑）．しかしながら一つだけ確信を持っていえることは，いずれの大学も学生の質がきわめて高いということです．歯科医療の将来を考えたとき，やはり質の高い学生を確保できる環境を維持することは大変重要であり，いわばそれこそが我々大学人に課せられた使命であると思います．そして彼らが興味を持って歯科医学の発展に尽力したいと思うように持っていくことが最も重要であると思います．今後その考えに基づいて教室を創っていきたいと思っております．

さて，この原稿は歯系病院広報に掲載されるということですので，こちらの臨床について少しご紹介いたします．私は岡山大学病院では歯周科に所属しておりましたが，こちらでは同じ保存系のむし歯・変色歯歯科という科の所属になります．とはいえ，私自身は保存系のすべての治療をやっております．こちらにきてまず感心した点はすべての根管治療にラバーダムを用いている点であります．最初は面倒だと感じていましたが，慣れというのは恐ろしいもので，今では逆になぜこれまで積極的に使用しようとしなかったのだろうと思うようになりました．同じ科の他の医局員は皆，保存修復の専門家でしたので当科の初診日に来院した重症の歯周病患者はすべて私に回ってきます．ちょうど初期治療がすべて終わったところなので，これから進入医局員と一緒に一連の外科処置をするのを楽しみにしております．今後，歯周治療もあるいは修復治療も専門医あるいは認定医のレベルで行えるような臨床医を養成していきたいと考えています．

最後になりましたが，こちらは交通渋滞が激しく特に朝の通勤には帰りの倍も時間がかかります．また，同じ瀬戸内に位置しますが，岡山よりも気象が厳しく豪雨や積雪あるいは寒波にみまわれることもしばしばです．今考えると岡山は非常に住みやすい街だと改めて実感します．しかしながら住めば都といいます．私はこれまで生まれ故郷，福岡，岡山，ニューヨーク，岡山と移り住んできました．きっとそれなりにこの街も住みやすいと思うようになるでしょう．この広報をご覧になる皆様，広島にお越しの際は是非，広島大学病院歯科をのぞいてみてください．

「摂食・嚥下リハビリテーション診療室のご紹介」

第一総合診療室
石田　瞭 / 有岡享子

特殊歯科総合治療部に摂食・嚥下リハビリテーション外来が開設されてから，この春で５年目を迎えました．いまだスタッフは不足しておりますが，外来，院内往診の治療部門のみならず, 隔月のカンファレンスや毎週木曜日の症例検討会での情報交換, 研修等も行っております．

さて，この度，新たに「摂食・嚥下リハビリテーション診療室」が開設されました．旧臨床検査室の一部をリフォームしていただき，この４月より稼動し始めております．

今まで，外来患者様の摂食・嚥下リハビリテーションは第一総合診療室内の一室を使用しておりました．もともと歯科処置前後に患者様，付き添いの方に休んでいただく部屋であったため, 予約調整の必要や, 部屋の前を人の往来があり, 集中しにくいといった難点がありました．

摂食・嚥下の訓練，指導にあたり，まずは実際に食べる場面を観察することが非常に重要です．できるだけ普段と同じように食べていただくことが望ましいのですが，特に外来に多い小児の患者様は，診療室であるというだけで緊張してしまいがちです．リラックスでき，安心して食べることに集中できる環境を整えることが必要になります．そこで，新設の摂食・嚥下リハビリテーション診療室には，畳敷きの部屋を設けました（写真 1）．ここでは主に抱っこや座面，子供用の椅子等で食事をしている幼児，小児の訓練，指導を行っています．また，成人や座位保持椅子等を使用している患者様にそのままで食事をしていただける場所も設けています（写真 2）．専用の部屋であることもあり，人の往来も少ないため，どちらも静かで食事に集中しやすい環境となっております．

当診療室はまだ出来たばかりで改善の余地がありますが，患者様に適切なリハビリテーションを行える, リラックスできる空間にしていけるよう充実を図っていきたいと考えております．

スタッフも，新たな診療室で気分も一新し，更に努力してゆく所存です．これからもどうぞよろしくお願いいたします．

写真１

写真２

「Nasal Speaking Valve；鼻咽腔閉鎖不全による構音障害の改善装置」

咬合・口腔機能再建学分野
洲脇道弘

写真は鼻咽腔閉鎖不全による構音障害の改善装置（Nasal Speaking Valve（以下NSV））です．

構音に際して，軟口蓋は口腔と鼻腔を閉鎖する役割を担っています．必要に応じて軟口蓋が挙上することにより鼻咽腔は閉鎖され，口腔内圧を高めることが可能となり発音や嚥下ができるようになります．この機能を鼻咽腔閉鎖機能と呼びますが，脳血管障害や頭部外傷等の後遺障害により，しばしば軟口蓋の運動障害（鼻咽腔閉鎖不全）が起こります．

その結果，発音時に息が鼻へ漏れて言葉が不明瞭になるという症状が生じます．

鼻咽腔閉鎖不全に伴う構音障害の補綴的治療として PLP（Palatal Lift Prosthesis，軟口蓋挙上装置（以下 PLP））が使用されています．これは上顎の床後端に付与した挙上子が軟口蓋を機械的に挙上して鼻咽腔を閉鎖する装置です．PLP により会話の質が改善されるという多くの論文がありますが，PLP には以下の短所が挙げられます．

軟口蓋を機械的に挙上するので通常の上顎義歯よりも大きな維持力が必要であり，一般に無歯顎や多数歯欠損症例では適応が困難である（適応した症例報告はある）．

患者によっては装着時の違和感が強く，継続して使用できない．

これらの短所を改善することを目的として我々は NSV を開発しました．NSV は鼻孔に装着して使用する装置であり，患者自身で簡単に着脱が可能です．鼻孔の印象は歯科用シリコーン印象剤を用いて行います．レジンで外殻を作製し，内部に弁構造を内蔵します．この弁は発音時に閉鎖され鼻からの息漏れを減少させるが，息を吸うときには開放されるように設計されています．NSV は残存歯の状態に関わらず適応でき，装着感も良好であるという特徴を持っています．

NSV 装着によって明瞭度の改善等の成果を得ていますが，鼻孔を閉鎖することは正常な構音様式（軟口蓋を閉鎖する）と比べて共鳴腔の容積が異なるため，その音響学的特徴を解析するよう研究を進めています．

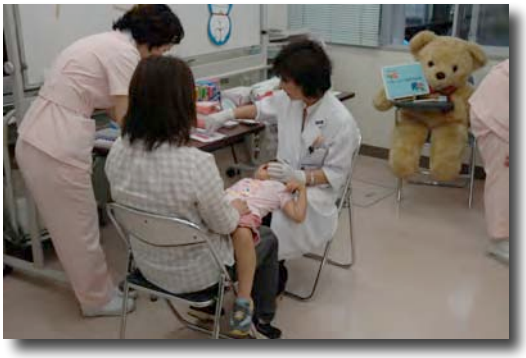
歯の衛生週間イベント

歯科衛生士室　三浦留美

歯の衛生週間は，厚生省（現：厚生労働省），文部省（現：文部科学省），日本歯科医師会が，１９５８年から実施している週間で，毎年６月４日から６月１０までの１週間が設定されている．歯の衛生に関する正しい知識を国民に対して復旧啓発するとともに，歯科疾患の予防処置の徹底を図り，併せてその早期発見・早期治療を励行することにより歯の寿命を延ばし，国民の健康の増進を推進することを目的としている．

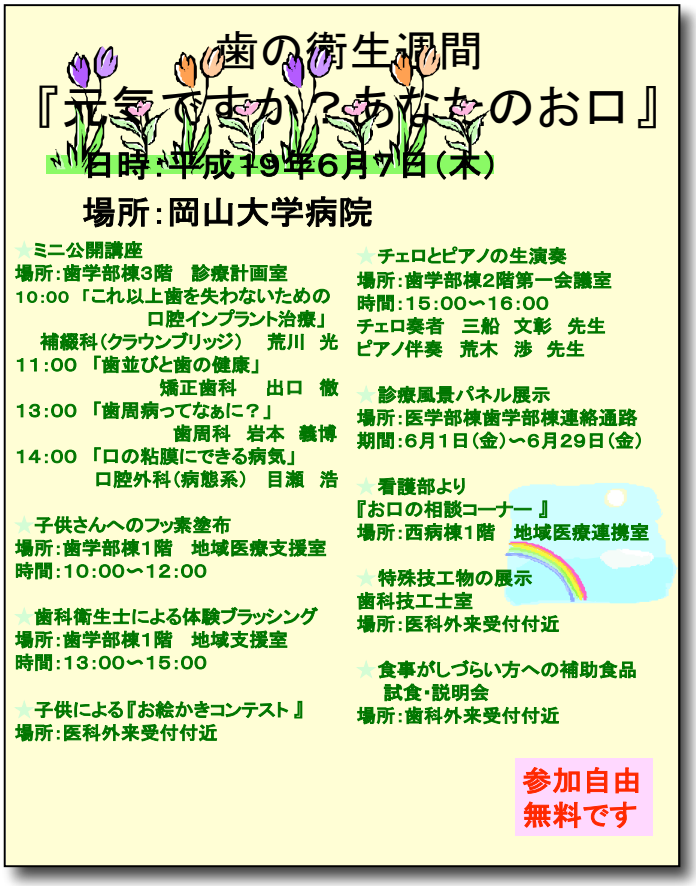
岡山大学病院では例年，看護部の「看護の日イベント」の一環として５月に歯科の特色を表した講演やイベントを行っていた．しかし，より歯科をアピールすべく，平成１７年より「歯の衛生週間イベント」として歯の衛生週間中にイベントを開催している．イベントには毎年テレビ・ラジオ・新聞等の取材が入り，当院に通院・入院されている患者様のみならず，広く市民の方々に岡山大学病院の歯科を知っていただく良い機会となっている．今年度も下記の通り開催いたします。各診療科の先生方におかれましては大変お忙しい事と存じますが，ご協力，ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

平成 18 年度フッ素塗布風景



平成 18 年度　歯の塗り絵コンテスト表彰式風景

平成 19 年度イベントパンフレット



歯の衛生週間
『元気ですか？あなたのお口』
日時：平成19年6月7日（木）
場所：岡山大学病院

★ミニ公開講座
場所：歯学部棟3階　診療計画室
10:00「これ以上歯を失わないための口腔インプラント治療」
補綴科（クラウンブリッジ）　荒川 光
11:00「歯並びと歯の健康」
矯正歯科　出口 徹
13:00「歯周病ってなぁに？」
歯周科　岩本 義博
14:00「口の粘膜にできる病気」
口腔外科（病態系）　目瀬 浩

★子供さんへのフッ素塗布
場所：歯学部棟1階　地域医療支援室
時間：10:00～12:00

★歯科衛生士による体験ブラッシング
場所：歯学部棟1階　地域支援室
時間：13:00～15:00

★子供による『お絵かきコンテスト』
場所：医科外来受付付近

★チェロとピアノの生演奏
場所：歯学部棟2階第一会議室
時間：15:00～16:00
チェロ奏者　三船 文彰　先生
ピアノ伴奏　荒木 渉　先生

★診療風景パネル展示
場所：医学部棟歯学部棟連絡通路
期間：6月1日（金）～6月29日（金）

★看護部より
『お口の相談コーナー』
場所：西病棟1階　地域医療連携室

★特殊技工物の展示
歯科技工士室
場所：医科外来受付付近

★食事がしづらい方への補助食品試食・説明会
場所：歯科外来受付付近

参加自由
無料です

「歯科衛生士室」

スタッフ紹介

室長ー　下野　勉（小児歯科教授）

総合歯科ー　三浦留美

むし歯・歯周科ー　住吉由季子，三宅香里（新人），森國真由（新人）

補綴科ー　蟻正桂子，蔵重恵美子，瀬口真弓

矯正歯科ー　高橋明子，大塚奈緒美（新人）

予防歯科ー　木南美香，岡崎恵子（新人）

小児歯科ー　加藤禎子，岡本　納（新人）

歯科衛生士は，合計１３名です．４月から２名増員の予定です．よろしくお願いいたします．

１８年度　活動報告

各科での診療業務の他に

・ＮＳＴの参加

・総合患者支援センター

・糖尿病教室

・母親教室

・褥瘡の回診

・小児病棟の歯磨き教室

・往診（随時対応していきますのでご要望があれば歯科衛生士までご連絡下さい）

歯学部棟の玄関

編集後記

委員　神農泰生

歯系広報誌の発刊が今回で第３刊となります．今回から，本学に在学している外国人留学生のレポートが内容に加わりました．岡山大学全体でグローバル化を推進している今，日本の目だけでなく，海外の目で見る岡山大学歯学部というのもおもしろい企画ではないでしょうか．これを機に，読者の皆様が，立場や講座の枠を越えて，交流して頂ければ多幸に思います．

なお，編集委員の途中での交代などの諸事情により，発刊の遅れが生じたことをこの場を借りてお詫び申し上げます．

最後に，お忙しい中，原稿依頼を快く受諾していただいた諸先生に厚く感謝の意を表すとともに，病院全職員のますますのご健勝をお祈りいたします．

歯系広報専門部会

（平成 18 年度 委員）

部会長	窪木 拓男	歯科放射線科･口腔診断科	河井 紀子
総合歯科（歯科研修部門）	白井 肇	予防歯科	江國 大輔
むし歯科	田代 陽子	小児歯科	假谷 直之
	神農 泰生	矯正歯科	川邉 紀章
歯周科	西村 英紀	特殊歯科総合治療部	森 貴幸
補綴科（クラウンブリッジ）	水口 一	看護部	河野 幸枝
補綴科（咬合・義歯）	長谷川浩一	歯科衛生士室	高橋 明子
口腔外科（再建系）	水川 展吉	歯科技工部	神 桂二
口腔外科（病態系）	岸本 晃司	薬剤部	古野 勝志
歯科麻酔科	樋口 仁	医療情報部	小河 達之

http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/mdps

OKAYAMA
UNIVERSITY

岡山大学

岡山大学歯学部
〒700-8525
岡山市鹿田町二丁目５番１号
TEL 086-223-7151（代表）
FAX 086-235-6612
http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/dent/

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
〒700-8558
岡山市鹿田町二丁目５番１号
TEL 086-223-7151（代表）
FAX 086-235-7045
http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/mdps/

岡山大学　医学部・歯学部附属病院
〒700-8558　岡山市鹿田町2-5-1
TEL 086-223-7151（代表）
FAX 086-235-7636
http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/hos/

卒後臨床研修センター
歯科研修部門
〒700-8525
岡山市鹿田町2-5-1
TEL&FAX 086-235-6751
http://www.dent.okayama-u.ac.jp/sotsugo/index.htm